



学校だより

8月号

令和2年7月30日

まちのみんなひとつになあれ

「夏休みを前に」

校長 堀野 由里

体育館へ授業に向かう1年生たちが、並んで階段を下りてきました。マスクをはずしているのもみんな静かに黙って下りてきます。いつもだと「こんにちは」と私に声をかける子どもたちですが、“マスクをはずしたら話さない”ことが優先なので、顔はこちらを見ていますが、黙っています。どうすることがよいのかをしっかりと分かっているのです。

4月の入学式、始業式から2か月近くの臨時休校になり、その後「新しい生活様式」の中、学校が再開し、分散登校が始まりました。登校に当たっては地域の見守りの皆様には午後の暑い中も子どもたちを見守っていただきました。そして短縮授業を経て、7月から給食が始まり、来週から2週間の短い夏休みに入ります。間隔をあけて後ろまで机を並べた教室で、また様々な制約のある中で、2か月遅れの学校生活が始まりました。いつもなら4月のスタート時に、新しい学級で、互いに知り合って仲良くなるためにしていた活動も、周囲と距離をとるためにできないことが多くありました。先日行った子どもたちの生活アンケートからは、不安を感じたり戸惑ったりしながら、それでも新しい学年で、新しい学級で、一生懸命考えながら活動していることが感じられました。

初めての環境に緊張する子、友達に思いを伝えることが苦手な子、休校期間中の学習があまり進まなくて自信のない子など、子どもたちはこの状況の中、6月からの学校再開をみんなが順調に迎えられたとは限りませんでした。教師と子ども、子どもと子ども、人間関係をつくることができない期間が長くなりました。学校の様々な活動は互いの関係性の中で行われていきます。このような中でのスタートでしたから、様々な場面で子どもたちはそれぞれが努力をして頑張ってきました。この子どもたちの頑張りを、認めて褒めてあげたいと思います。

学校には一緒に過ごす先生や友達がいる、授業、休み時間、給食、放課後という日程があります。勉強する、体を動かす、遊ぶという活動があります。この日々の学校生活を行うことがこんなにも大変で、でも少しでもできることが、こんなにもうれしいことだということを私たち教職員も感じた数か月でした。夏休み後も平常に戻ることは難しく、この感染症への配慮をしていく状況はまだしばらく続くことが考えられます。今後も予定していた活動ができなくなったり、変更せざるを得なくなったりすることもあるかと思えます。また引き続き、健康観察などご家庭に協力いただくことも多いと思います。これからも地域の皆様、保護者の皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。